

穴吹不動産流通(株)鹿児島店

「市況レポート(2022年1月)」

南日本新聞の記事によると、鹿児島県の新総合体育館の基本構想案をまとめる検討委員会は11日、整備地としていた鹿児島市の鹿児島本港区のうち、ドルフィンポート跡地(本港新町)に体育館を整備することが全会一致で決定されました。近接する住吉町15番街区は駐車場として利用されます。体育館は4階建てが想定されており、1階にメインアリーナとサブアリーナ、2階に武道館が配置され、高さは25~30メートル程度の見込みです。桜島や鹿児島湾を見渡せる展望デッキが3、4階に設けられます。基本構想は年度内に策定する方針で、体育館を南側に施設配置することで市街地から桜島への影響が少ないと説明されました。鹿児島市はサッカースタジアム候補地としてドルフィン跡、住吉町15番街区、浜町バス車庫を挙げ、浜町を除く2カ所が体育館整備候補地と重なっていました。同日の検討委は、ドルフィン跡に体育館、住吉町には駐車場の整備が決定されました。本港区、住吉町の今後の動向に注目が集まります。

~2021年12月13日 日本銀行鹿児島支店 鹿児島県金融経済概況より~

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、全体として緩やかに持ち直している。観光は、持ち直している。住宅投資は、下げ止まっている。公共投資は、高水準で推移している。生産は、緩やかに増加している。

企業部門の動向を短観(12月<鹿児島・宮崎両県集計分>)で見ると、景況感は、回復している。設備投資は、増加している。こうした企業動向を反映して、労働需給は、改善しつつある。雇用者所得は、弱い動きとなっている。

【各論】

個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回った。家電販売額は、前年を下回った。

乗用車新車登録台数(含む軽自動車)は、前年を下回って推移している。

公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。

住宅投資 新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

【まとめ】

鹿児島県金融経済概況の概要によると、鹿児島県の景気は緩やかに持ち直していますが、今後のコロナウイルスの感染拡大によっては経済に影響を及ぼすことが考えられます。新たに物件購入のご計画のあるお客様におかれましては、コロナ禍での様々なご不安にも対応させていただきますので、ぜひ一度あなぶき不動産流通にご相談下さい。